令和４年度
日本精神科医学会学術教育研修会
報　告

心理部門

涌波　淳子

「こころをつなぐ～医療と連携する心理支援～」をテーマに日本精神科医学会学術教育研修会心理部門が，令和４年10月13日，オンライン研修会にて開催された。

日精協長崎県支部長の田川雅浩先生の開講のあいさつに続き，山崎學日精協会長の会長講演「精神科医療の将来展望」が行われた。会長講演では，文政元（1818）年の漢方医による私立の精神科診療所から始まった日本の精神科医療の精神障害者に対する人権問題と治療の歴史から現在も抱えているさまざまな課題について多角的切り口で話され，その後，SDGs（持続可能な開発目標）の課題として食料をはじめ，医薬品，ワクチン，半導体など表面的な数字だけではなく，飼料や原材料なども含めて自給率を高めていく必要性，そして，精神科医療に関しても根本的な体制の見直しが喫緊の課題であると締めくくられた。

講演１は，「神経発達症の心理的アセスメントと支援」と題して長崎大学病院地域連携児童精神医学講座の今村明教授にご講演をいただいた。これまで子どもの疾患と考えられていた「神経発達症」が，DSM-5，ICD-10では子どもから大人までの疾患としてカテゴライズされたことと「disorder」が「障害」から「症」と訳されたことが画期的であると紹介された後，知的機能と適応行動，そして成長の過程からASDとADHDについて評価の仕方の説明があり，課題にのみ目を向けるのではなく，それぞれの「強み」にも目を向けてそれを生かした職業や役割を目指すことが大切だと述べられた。また，その教育・生活支援プログラムとしてTEACCHについてご紹介があった。

講演２は，「医療と連携する心理支援　～アウトリーチ・訪問診療という臨床場面での体験から考えること～」と題して，医療法人財団厚生協会大泉病院診療部長の木崎英介先生がご講演された。アウトリーチとは「支援を必要としているのに①自ら求めることがない人，②求めようとしない人，③求めても既存の支援のシステムには届かないでこぼれてしまう人たちに，その人たちの生活の場に出向いて支援や助言を提供すること」と定義され，「長期入院患者の地域定着支援」と「治療中断や未受診者，ひきこもりなど精神疾患の特性により既存の支援が行き届かない対象への支援」という二つの意義がある。令和３年から始まった自院での症例を通して，アウトリーチとはpersonal spaceに入り込む大変無遠慮な行為であり，求めていない人に診療をしようとする大きなおせっかいであることの理解と，一方で歓迎されすぎるアウトリーチが退行や攻撃性・暴力を惹起するリスクの可能性も理解すべきであると述べられ，対象者における「訪問される（つながる，つながろうとされる）行為」の意味を吟味し続けることが大切であり，支援者の臨床心理上のトレーニングの必要性や有用性を強く感じており，ここに臨床心理士の参入を強く期待していると話された。

シンポジウムは，「心理支援　こうつなぐ・こうつなぎたい」をテーマに，医療法人清湖会三和中央病院心理療法室室長・日精協長崎県臨床心理

士会会長の森和弘先生と，日見中央病院心理室の濱本信乃先生のお二人がコーディネーターとなり開催された。

最初に「医療とスクールカウンセラー」と題して　医療法人横尾病院コメディカル長の石橋正次先生から統合失調症や発達障害などの疑いを通して保護者や学校と医療をつなげていく時のステップやつながった後のフォロー，医療と教育が連携していくためのバランサー的役割について説明があり，より良い連携のためには①連携先について知ること，②全体的な支援の形を俯瞰的に見ること，③自身の役割を認識した上で役割を超えた補填や追加，再構築をする柔軟性が大切であると語られた。

次に，「医療と職場の連携と協働―治療と仕事の両立支援の観点から―」と題して長崎純心大学人文学部／大学院人間文化研究科の田崎みどり講師から「療養・就労両立支援指導料」の対象疾患として「若年性認知症」が加わったこと，職種として「精神保健福祉士」と「公認心理師」が加わったことが紹介され，「疾病性に基づく治療」の立場である医療現場と「事例性による問題への対応」を目的とする職場側の立場，そして患者さん本人という三者をつなぐ翻訳者として公認心理師の役割が紹介された。

最後に，「医療と犯罪被害者支援」と題して（公社）長崎犯罪被害者支援センターの前田和明理事長から潜在化している犯罪被害者の苦悩を支えるためには，医療や行政を含めたチームが必要で，それらと被害者をつなぐことがとても大切であると話された。

その後，指定討論者の木崎英介先生が加わり，活発な意見交換がなされた。

閉講式では，日本精神科医学会から日精協長崎県支部へ感謝状が贈呈された後，日精協長崎県支部長の田川雅浩先生が閉講のあいさつをされ，全日程を終了した。

田川雅浩長崎県支部支部長をはじめ本研修会の企画・運営に当たられた長崎県支部の諸先生方およびスタッフの皆様，関係者の方々に深く感謝を申し上げるとともに，長崎県支部の今後のご発展をお祈り申し上げたい。次年度の心理部門の開催は沖縄県で令和5年11月24，25日に通常開催の予定である。新型コロナウイルス感染症との戦いに勝利して全国の皆様と顔を合わせての盛大な研修会になることを期待している。

（日本精神科医学会
学術教育推進制度学術研修分科会）